

## 第 1 回未来を拓く人づくり部会（令和 2 年 7 月 1 0 日） 委員発言要旨

議事	テーマ	発言要旨	発言者
第 3 期ふるさと秋田 元気創造プラン戦略 6 における取組状況 等について	キャリア教育の促進	各地域振興局が実施している中学生向けの企業ガイダンスに関して、県教育委員会も連携して実施することで、より広い範囲で多くの企業に触れることができる機会を提供してほしい。	佐藤有加委員
		職場体験やインターンシップで感じたことが自分発見につながるようなキャリア教育の展開を目指すべきである。	野崎一委員
	ふるさと教育の促進	ふるさと教育については、歴史や自然に愛着を持つという視点から一歩踏み込み、それが産業やビジネスにどうつながるかという、現実的な思考を組み入れていただきたい。	豊田哲也委員
	英語力の向上	児童生徒が英語を使用する機会をより身近に感じられるよう、ふるさと教育と結び付けた英語学習を展開してはどうか。これを充実させるため専用の副読本などを整備してはどうか。	豊田哲也委員
	心と体の育成の推進	授業のオンライン化が進んだ場合でも、学校でしかできないことという視点も重要であり、体育や集団活動については、適切に展開していく必要がある。	豊田哲也委員
	ネットモラル教育の促進	臨時休校措置により、多くの児童生徒の生活習慣が乱れたことに鑑み、これまでのモラル指導に加え、健康指導も加えたインターネットセキュリティの普及啓発が必要である。	佐藤有加委員
	教員の働き方改革の推進	英語や ICT など新たな分野に携わらざるを得ない教員が、必要な研修を受けることなどができる時間を生み出せるよう、働き方改革を進めていかなければならない。	林信太郎部会長
	教育における ICT 活用の推進（オンライン授業の実施）	ICT の発達に伴い変わっていくであろう教育の形を先取りするような取組が必要である。	豊田哲也委員
		双方向型のオンライン授業を展開するには、教員が機器の操作に精通している必要があることから、教員研修を確実に実施する必要がある。	豊田哲也委員
		オンライン化の流れに遅れることは、秋田の教育力の低下につながることから、オンラインの特性を生かしたより質の高い授業の導入に向けた検討を進めていく必要がある。	林信太郎部会長
オンラインでの授業を実施することで、不登校の児童生徒も授業に参加できることから、学習の継続という観点からもオンライン授業には必要性があるだろう。		野崎一委員	

議事	テーマ	発言要旨	発言者
第3期ふるさと秋田 元気創造プラン戦略 6における取組状況 等について	教育におけるICT 活用の推進（オン ライン授業の実施）	オンライン授業の実施については、授業の質の確保も課題となることから、オンライン授業の展開に関する教員研修も必要となる。	豊田哲也委員
		オンライン授業の実施には、技術的な支援が必要である。県立大、教養大はもとより、秋田大学とも連携を進めていただきたい。	林信太郎部会長
		オンライン化が普及すれば、近隣の学校間を結んだイベントの開催等が可能となることから、学校間の新しい連携モデルを検討する必要がある。	豊田哲也委員
	学校・家庭・地域の 協働の推進	学校と地域のより良い関係を作るため、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置に併せて、地域学校協働本部の設置も推進する必要がある。	佐藤有加委員
		家庭教育が担うべき部分については家庭で指導ができるよう、保護者に対する指導・啓発が必要である。	野崎一委員
	ウィズコロナ （インターンシッ プ等の維持・継 続）	新型コロナウイルス感染症による対面的な活動への制約があったとしても、キャリア教育としての職場見学やインターンシップは確実に実施していく必要がある。	佐藤有加委員
	ウィズコロナ （海外交流事業の 維持・継続）	新型コロナウイルス感染症の下では、米国語学留学等の海外における対面活動は実施できないが、オンラインを活用し、同程度の成果が上がる交流体験をより多くの生徒に提供すべきである。	豊田哲也委員
	ウィズコロナ （学びの場の確保）	新型コロナウイルス感染症の第2波が到来し再び臨時休校措置が採られた場合は、児童生徒の学びの機会を保障するため、双方向型のオンライン授業を実施する必要がある。	豊田哲也委員
		家庭にWi-Fi環境のない生徒に対する支援策を検討し、生徒の学習の機会を保障する必要がある。	豊田哲也委員